

7月6日～9日実施の国際フェリー目視調査結果に基づく 大型クラゲの出現予測モデルの計算結果について

独立行政法人水産総合研究センターでは、大型クラゲの出現予測モデルを開発しています。このたび、国際フェリー目視調査結果等を初期条件として水産総合研究センター及び気象庁の海況予測モデル^{*1}^{*2}流況結果を用いて、我が国沿岸水域における大型クラゲの出現予測計算を行いました。

7月6日～9日に実施された国際フェリー目視調査結果^{*3}を初期条件として、このモデルを用いて計算したところ、今回の調査で済州島北部沖合で確認された大型クラゲは7月15日前後に対馬海峡を通過し始めることが予想されましたので、情報提供いたします。
〔平成24年（大型クラゲの大量出現がなかった年）は7月24日に対馬の定置網で大型クラゲの出現が確認されています。〕

なお、本予測モデルは大型クラゲの先端群がいつ日本周辺水域に出現するかを予測するものであり、このモデルで出現量を予測するものではありません。また、本予測モデルは、現在まで得られた気象等のデータに基づき計算されたものであり、今後の気象・海象条件により実際の確認時期と相違が生じる場合がありますので、実際の出現状況等については、国際フェリー目視調査や調査船調査結果を御確認いただくようお願いします。

- ※1. 水産総合研究センターの黄海・東シナ海領域モデル（Regional Model：海況予測モデル FRA-ROMS をベースとして構築された海域モデル）
- ※2. 気象庁の海洋大循環モデル（MOVE/MRI.COM）
- ※3. 「大型クラゲの出現状況（国際フェリー調査結果等）について（第2報）」
<http://www.fra.affrc.go.jp/kurage/h25/250712/index.html>

本件照会先（担当者）：

独立行政法人水産総合研究センター

研究推進部研究主幹 中田 TEL 045-227-2646

日本海区水産研究所資源環境部長 加藤 TEL 025-228-0587